

【共催・協賛会議参加報告】



共催・協賛会議参加報告

◆ 第6回3次元画像コンファレンス'98 参加報告

杉原敏明

(ATR 知能映像通信研究所)

(News letter Vol.3, No.7)

開催日：平成10年7月1、2日

開催場所：新宿 工学院大学

主催：3次元画像コンファレンス実行委員会（担当、画像電子学会）

実行委員長：神奈川工科大学 小宮一三教授

発表件数：基調講演1件、特別講演1件、招待講演5件、一般講演30件、ポスター講演11件、シングルトラックにて開催

出席者数：約200名

主な講演、技術的、トピック的に興味深い発表は以下のものがあつた。

「全方位画像センサによる情景の映像アーカイビング」、招待講演、奈良先端大、横谷教授

オーグメンティッドリアリティへの応用を目的とした、広域の実画像の実時間取り込みのための試みである。車にセンサ系を載せた試作システム系と、それをを用いた画像取り込み例について述べられていたが、比較的、完成度の高いものと思われる。

「ホログラフィック動画像表示の現状」、招待講演、千葉大、本田教授

完全な3次元画像の表示を可能とするホログラフィの動画像表示への応用について、研究開発の現状を、通信・放送機構で行われた研究を中心として、種々、御紹介された。ホログラフィによる動画像表示は次世代の3次元表示の本命と目されて久しいが、この発表によれば、現状

では克服すべき技術的課題が多いとのことである。

「Video-Based Renderingの基礎検討」、東大、苗村氏
これも実画像取り込み系の研究であり、目的は実時間の実動画像を処理することである。多眼カメラを用いた取り込みハードウェアの試作とその制御アルゴリズムの発表をされた。解像度の点、動歪みの点の問題はあるものの、今後が期待できるものと考えられる。

「デスクトップ3D技術の開発」、三洋電機、天野氏
近年、三洋電機さんが力を入れられているイメージスプリッタ方式の3Dディスプレイを中心として、3Dオーサリングツール等を統合化して商品パッケージ化された件の報告をされた。地道な商用化の努力として評価すべきものがある。

「垂直プロファイル補正による実時間レンジファインダの精度改善」、松下電器、吾妻氏

先日、新聞発表もなされた、画像の撮像時に画像までの奥行き情報を得ることを目的としたレーザーを用いたレンジファインダの御発表であった。これまでに各種の学会等で発表された内容は方式の検討や設計のためのシミュレーション等の報告であったが、今回、実機を試作されたとのこと、具体的な性能とその評価の一旦も明らかとなった。現状では試作の域であるが、今後が期待できる技術である。

◆ IVR'98 「ソフトウェア対決」参加報告

柳田康幸

(東京大学)

(News letter Vol.3, No.8)

第6回産業用バーチャルリアリティ展が、6月17日から